

# 知って安心 あなたのくすりと健康 聞いて安心

第89号

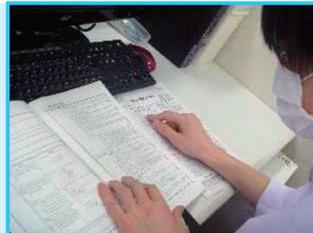
- 薬物乱用を防止しよう…賛助会員 久保田 貴子
- あなたの「おくすりアレルギー」伝えていますか?…大和市立病院 薬剤科 三田 恭平
- 病院薬剤師と調剤薬局薬剤師の連携（薬薬連携）について…横須賀共済病院 吉川 明彦  
～安全な薬物治療を続けるために～



医師の処方箋が適切  
かチェックします

くすりの投与量が患者さんの体の状態に適しているかなど、検査値等を見て確認しています  
飲み合わせの悪いくすりがないかも確認します  
処方内容に疑問、誤りなどがあれば医師へ連絡し確認をとります

正しいと判断した処方箋に基づき、  
くすりを集めます



もう一人の薬剤師が再度処方箋の内容が適切か集められた  
くすりが正しいかを確認します

内服薬、外用薬だけでなく、注射薬についても同様に複数の  
薬剤師がかかわっています



<表紙写真>くすり Get the Answers かながわ 推進委員会 薬剤師業務パネル I:調剤業務

病院薬剤師の調剤業務についてご紹介いたします。

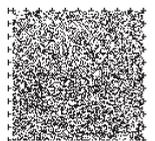
病院薬剤師は“くすりの専門家”として患者さんの年齢や状態に応じたくすりが、適切に処方されているかなどを判断して、内服薬、外用薬、注射薬の調剤を行っています。また患者さんに正しく、くすりを使用していただくための説明や情報を提供しています。

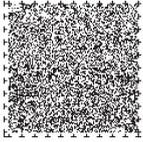
(この写真は、薬剤師の職能を理解していただくためのパネルとしてイベント時に使用しています。)

公益社団法人 神奈川県病院薬剤師会

2018年6月発行

音声コード





## 薬物乱用を防止しよう

### 1 「薬物乱用」とは

「薬物乱用」とは、大麻、覚醒剤、危険ドラッグなどの薬物を使用することをいいます。これだけでなく、医薬品を適正な使用目的・方法以外で使用することも乱用です。そして、1回だけでも「乱用」になります。

### 2 薬物乱用防止の普及活動について

5月1日から6月30日は「不正大麻・けし撲滅運動」、6月20日から7月19日は薬物乱用防止の「ダメ。ゼッタイ。」普及運動、10月1日から11月30日は「麻薬・覚醒剤乱用防止運動」の期間です。

大麻・けし事犯の発生防止には、不正栽培や自生する大麻・けしの撲滅だけでなく、国民のひとりひとりが薬物乱用の危害を正しく認識し防止することが重要です。

薬物乱用防止の強化月間には、キャンペーン等での啓発活動が行われています。

### 3 薬物乱用の状況

最近では大麻事犯の検挙者が年々増加しており、若年層を中心に乱用が広がっています。20歳代と未成年の検挙者を合わせると約半数、最年少は中学生になります。

また、薬物事犯の7割を占める覚醒剤事犯でも最年少は中高生、再犯率も6割強ということから、強い依存性があることが窺えます。

薬物乱用のきっかけは、若い世代ほど人から誘われることが多く、好奇心・興味、またその場の雰囲気等、周囲に影響される傾向にあります。

### 4 乱用される薬物の影響について

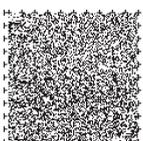
大麻、覚醒剤等乱用される薬物には強い依存性があるため、薬物による効果を求めて乱用を繰り返すようになります。これらの薬物は脳にも影響し、さまざまな精神症状や異常行動から社会生活に適応できなくなることや死に至ることもあります。乱用をやめても些細なきっかけで症状が再燃（フラッシュバック）するおそれは一生継続し、薬物から抜け出せなくなるのです。

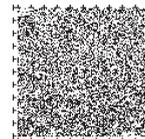
### 5 薬物に近づかないために

薬物について正しい知識を身につけ、誘いの言葉に騙されないようにしましょう。「1回だけなら」「ちょっとだけ、試すだけ」「みんなもやっているよ（やっていないのはあなただけ）」と友人や先輩などから誘われたとしても、はっきりと断る勇気を持つことです。断ることが難しい場合は、その場を立ち去りましょう。

薬物の相談は、関東信越厚生局麻薬取締部横浜分室（045-201-0770）、神奈川県薬務課（045-210-4972）、神奈川県警察本部（0120-457-867）、最寄の警察署や保健所、また、薬の海外通販や危険ドラッグについて「あやしい薬物ネット（03-5542-1865）」などで行っています。

賛助会員 久保田 貴子





## あなたの「おくすりアレルギー」伝えていますか？

人間には、自分の細胞と外から侵入した異物とを区別し、異物を排除しようとする免疫機能が備わっています。しかし、この免疫機能が過剰に反応すると、時には人体にとって有害な症状を起こします。これをアレルギーと言います。原因となる物質（アレルゲン）は花粉、ダニ、食物などさまざまですが、人によっては薬もアレルゲンとなる場合があります。これを「薬物アレルギー」と言いますが、薬による副作用全体のうち6～10%程度を占めているとも言われています。

薬物アレルギーの原因となる薬は、抗菌薬、解熱鎮痛薬、造影剤、卵や牛乳の成分を原料に含む医薬品などで頻度が高いという報告がありますが、その他あらゆる薬がアレルゲンとなる可能性があります。アレルギー症状が発現する時期は、薬物を使用して直ぐに現れる場合（即時型）や1～2週間後から数カ月後に遅れて現れる場合（遅延型）があります。症状が軽度な場合は、小さな赤い斑点が全身に現れ、皮膚が部分的に赤く腫れたりします。また、薬を飲む度に同じ箇所が赤くなったり、日光を浴びることが刺激となって起こる光線過敏症と言うアレルギー症状もあります。

重症な場合は、アナフィラキシーショック（血圧低下や呼吸困難、意識障害を伴う全身性のアレルギー症状）やスティーブンス・ジョンソン症候群・中毒性表皮壊死症（発熱、眼の充血や唇のただれ、全身に紅斑や水疱が生じる症状）などがあり、急激に悪くなることもありますので気を付けなければなりません。このような症状がみられた場合には、ただちに病院を受診する必要があります。

症状が軽度な場合、ほとんどは原因となっている薬を中止することで症状が改善してきます。しかし、一度アレルギーの原因となった薬、もしくはそれと類似した構造をもつ薬を再び使用した場合、同様のアレルギー症状を起こしたり、より重篤な症状が現れてしまう場合もあります。たとえ症状が軽度であったとしても、原因となった薬（被疑薬）が分かっている場合は、薬の名前やその時の症状などをお薬手帳に記録して覚えておくことはとても重要です。医療機関を受診する際には、お薬手帳を持参して、必ず医師や薬剤師へ伝えるようにしましょう。

医療機関では、患者さんから得た過去に起こったアレルギーの情報を、より安全で適切な薬物治療に活かしています。

大和市立病院 薬剤科 三田 恭平

第23回 神奈川県病院薬剤師会主催 市民のためのくすり講座

### テーマ：もっと知りたい病気とくすりの話

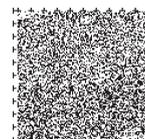
講演①：「見直そう！お薬との付き合い方」 遠藤 篤 先生（藤沢湘南台病院 薬剤部）

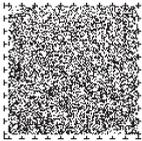
講演②：「知っているようで知らない不整脈の話」 田中 泰章 先生（横須賀共済病院 循環器内科 医師）

**日時** 平成30年8月5日（日）14:00～16:00（13:30開場）

**場所** 横須賀市産業交流プラザ（横須賀市本町3-27）

ご来場の皆さまの「血管年齢測定」や病院薬剤師によるおくすり相談も実施いたします。是非ご参加ください。





## 病院薬剤師と調剤薬局薬剤師の連携(薬薬連携)について ～安全な薬物治療を継続するために～

薬薬連携とは、安全な薬物治療を継続して患者さんに提供するために、病院薬剤師と調剤薬局薬剤師が様々な情報を共有して連携を図ることです。

両者が情報を共有する手段として、「お薬手帳」、「退院時服薬指導書」、「施設間情報提供書」、「トレーシングレポート」等があります。これらより、病院薬剤師は、アレルギー・副作用歴、処方薬の服薬記録、一般医薬品・サプリメントの服用状況等を、そして、調剤薬局薬剤師は、病名と告知の有無、アレルギー・副作用歴、検査値等を把握したうえで、各々が介入する薬物治療に活用しています。

一部の地域では、調剤薬局薬剤師が病院の電子カルテ情報を閲覧・分析した後、より高度な薬物治療を患者さんに提供しています。もちろん、厳格な規則により運用され、患者さんの個人情報保護されています。また、院外処方箋に検査値やがん化学療法の治療内容を記載する病院も増えています。(図1)

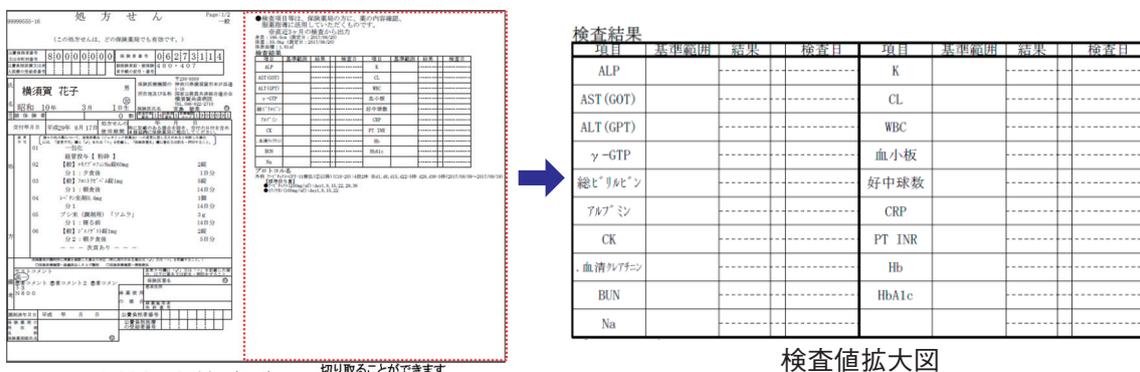


図1 院外処方箋(例)

さらに、病院薬剤師と調剤薬局薬剤師が、最新の医薬品情報や薬物療法についての知識を深めるために合同研修会を共同で開催し、多くの薬剤師が自己研鑽しています。患者さんの情報や医薬品情報を共有することによって、薬物治療の質が飛躍的に向上し、個々の患者さんに対してきめ細かな服薬指導が可能となります。安全な薬物治療を提供するために、病院薬剤師と調剤薬局薬剤師は、薬薬連携のさらなる発展に努力を惜しみません。困りごとや疑問に思うことなどを薬剤師に相談してみてもいいでしょうか。きっと希望に添う薬物治療が提供されることでしょう。

横須賀共済病院 吉川 明彦

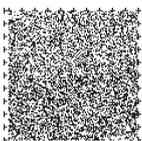
《編集後記》活躍する薬剤師を紹介しています。今後も様々な事業を企画してまいります。ご要望などございましたら、下記の事務局までご連絡お願いいたします。

《発行》公益社団法人 神奈川県病院薬剤師会 GTA委員会

〒235-0007 横浜市磯子区西町14-11 神奈川県総合薬事保健センター 4階

TEL : 045-761-3345 FAX : 045-761-3347

インターネットアドレス <http://www.kshp.jp/>



中学生・高校生対象

### 病院薬剤師体験セミナー

病院薬剤師の仕事に興味がある学生の皆さま、毎年好評いただいている本イベントを今年度も実施します！お申し込みをお待ちしております。

**日時** 平成30年8月15日(水) 13:00～16:30  
**場所** 横浜市立大学附属病院(金沢区福浦3-9)



お問い合わせ: 神奈川県病院薬剤師会 045(761)3345  
またはホームページをご覧ください

